

- 🔍 注目情報
- 📌 お知らせ
- 👤 募集
- 📅 イベント
- 🏆 スポーツ
- 🗨️ 相談
- 📷 公共施設
- 📷 フォト
- 👶 子育て
- 🏃 健康

～わたしのスポーツストーリー第4回～（不定期連載）

これまでの中でスポーツを通じて感じた喜びや達成感、心に残ったできごとなど、スポーツにまつわるお話を募集しています。ここでは、投稿された作品をご紹介します。

「シャトルを追って45年」

私がバドミントンを始めたのは、昭和51年30歳の年。長く続けられるスポーツとは考えていたところ、近所のHさんの勧めにより、市内のバドミントンクラブに入部。日曜日、小学校の体育館で練習に明け暮れました。Hさんの懇切丁寧な指導の下、バドミントンの魅力に嵌ってしまいました。今思えば、私の生涯スポーツの始まりでした。

昭和55年以降、地区のクラブで仲間と共にシャトル（重さ5.0g・水鳥羽根）を打つことに汗を流しました。またこの頃、スポーツ少年団のバドミントンの指導に携わることもできました。当時の日記には、ハイクリア（シャトルを高く遠くへ飛ばす）を400回も打ったとあります。

平成16年の第59回国体では、久喜市がバドミントンの主会場ということで、スタッフとして貢献できたと自負しています。

現在75歳、週に1度、高齢者大学の卒業生とシャトルを打っています。楽しみの極みです。

また昨年には、孫（小学6年生）と大会でダブルスを組むこともでき、永くバドミントンを続けてきたご褒美をいただきました。

45年間シャトルを追って得たこと、スポーツには地位も名誉も上下もありません。あるのはルールだけ。勝負は時の運、得た友は生涯の伴走者、そして自分自身の健康増進であったような気がします。

（久喜市北青柳 山木博興さん）

「あなたのスポーツストーリー」引き続き募集しています！

投稿条件 住所・氏名・電話番号・メールアドレス（ある方）・匿名の希望の有無・匿名希望の場合のペンネームを添え、400字程度でまとめて投稿してください。（様式自由）

投稿方法 直接または郵送・メールで、スポーツ振興課スポーツ企画係（〒340-0217 鷲宮6-1-1/✉sportsshinko@city.kuki.lg.jp）へ

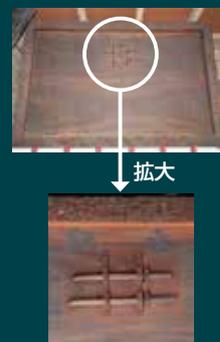
※投稿作品の著作権は、久喜市に帰属することをご了承ください。

連載

久喜歴史だより（第24回）



菖蒲神社の扁額に込められた 神道無念流剣士たちの思い



扁額による神道無念流剣士（菖蒲神社）

れて組織されました。この扁額に名前のある人のなかには、善次郎のほかに浪士組に参加した人がいることがわかっています。

扁額の寄附者については、本市の出身者が62名（旧久喜27名、旧菖蒲26名、旧栗橋2名、旧鷲宮7名）確認でき、全体の3割近くを占めています。

扁額に記された内容を見ると、日本の歴史の中で剣が果たした役割について述べながら、剣の重要性を後世に伝えるために扁額を奉納したとあります。その背景には、扁額奉納の前身に廃刀令が公布されたことが挙げられます。明治時代になって近代化が進む中、剣術家にとって苦しい時代となっていくますが、どんな時代になっても剣術を大切にしようとした彼らの思いが、時代を越えて伝わってくるようです。

問合せ 文化財保護課文化財・歴史資料係（☎内線233）

また、善次郎は、新選組の前身として知られる浪士組に参加したことがわかっています。浪士組は、幕末の動乱期に、京都の治安維持のために関東各地から剣術に長けた人材が勧誘さ

